

上田創造館 管理運営ビジョン



平成28年2月

改定 令和 6年4月

上田地域広域連合

《 目 次 》

1	上田創造館管理運営ビジョンの策定経緯・・・・・・・・・・	2
2	上田創造館の概要・・・・・・・・・・	2
	(1) 上田創造館の設置	
	(2) 施設概要	
3	上田創造館の現状及び実施事業・・・・・・・・・・	3
	(1) 上田創造館の現状	
	(2) 上田創造館の実施事業	
4	上田創造館管理運営ビジョン・・・・・・・・・・	5
5	管理運営ビジョンの個別計画・・・・・・・・・・	6

1 上田創造館管理運営ビジョンの策定経緯

昭和61年4月に開館した上田創造館は、上田地域の文化創造・コミュニケーション活動の中核施設として多くの地域住民に親しまれ、御利用いただいています。

しかしながら、社会情勢による利用者ニーズの変化や、近隣の文化関連施設の新築・改修などにより、当施設を取り巻く環境は著しく変化しており、経年劣化による施設の老朽化が進む中、修繕等に係る諸経費は増加している状況となっています。

こうした背景から、上田創造館の諮問機関である「上田創造館運営委員会」へ施設の設置及び管理運営について諮問を行ったところ、平成24年3月の答申において、「上田創造館の広域施設としての役割、あり方について長期的な視点をもって充分議論し、次期広域計画に反映すること」との要望をいただいたことから、第4次広域計画では「計画的な修繕の実施や将来的な施設のあり方を明確化するため、長期的な管理運営ビジョンを策定する。」ことを明記しました。

このことを受け、平成26年7月に関係市町村や有識者で構成する「上田創造館管理運営ビジョン策定会議」を立ち上げ、慎重に審議を行い、施設管理運営の指針となる「上田創造館管理運営ビジョン」を平成28年2月に策定しました。

その後も、「上田創造館管理運営ビジョン」に基づき、施設の適正な維持管理に務め、令和5年4月で37周年を迎えて、現在も地域に根付いた施設として管理運営を行っています。

また、第6次上田地域広域連合広域計画（令和5年度から令和9年度）の中では、「上田創造館の設置、管理及び運営に関すること」を事業項目として定め、施策として「管理運営ビジョンの推進」、「地域の科学館としての事業実施」、「地域住民の利用促進」、「施設の適正な管理運営」を掲げています。更に地域の皆様に愛され、親しまれる施設を目指し、地域の中核施設としての役割を今後も果たしてまいります。

2 上田創造館の概要

(1) 上田創造館の設置

昭和53年、上田市において「子ども科学館」建設に向け各方面と協議を進めていたおり、「文化公園整備事業」補助金(県)、「田園都市中核施設整備事業」補助金(国)が認められることとなりました。ただし、補助採択の条件として広域的施設としての位置付けが必要であったことから、事業主体を上小地域広域行政事務組合とし、「上田創造館」の名称で建設が行われました。

上田地域住民の文化創造、コミュニケーション活動の中核施設として位置付けられ、複合的な機能を兼ね備えた「地域に開かれた広場」（リージョンプラザ）として昭和61年に開館しました。

(2) 施設概要

開 館	1986年（昭和61年）4月1日
敷地面積	14,147㎡
建築面積	2,792.20㎡
延床面積	7,032.8㎡
構 造	鉄筋コンクリート造、地下1階、地上4階、塔屋3階
駐 車 場	150台
開館時間	午前9時～午後10時
休 館 日	年末年始（12月29日～1月3日）他
施設内容	文化創造・コミュニケーション活動のための施設 （芸術・文化・教育・スポーツ・レクリエーション活動を行える複合施設）

3 上田創造館の現状及び実施事業

(1) 上田創造館の現状

文化センターをはじめ研修室、体育館、美術館、民俗資料館、プラネタリウム、天体観測室、科学実習室など多様なニーズに対応する機器及び設備を備え、各種の社会教育関係団体や文化団体及び企業等に幅広く利用されています。また、地域内の小・中学校における理科（科学）教育を補完するための、教育的な施設としても活用されています。

施設の管理運営及びソフト事業については、令和7年度末まで一般財団法人上田市地域振興事業団が指定管理者となり、毎年、事業内容を検証しながら運営を行っています。

しかしながら、社会情勢や地域住民のニーズの変化、近隣の関連施設の充実、新型コロナウイルス感染症の感染拡大などの影響により、利用者数は減少しましたが、感染者の減少により、コロナ禍前の状況に戻りつつあります。

ア 年度別利用者数

【延べ人数】

年 度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
利用者数	172,776	177,543	163,283	79,281	103,550	123,809

イ 施設別利用者数

【延べ人数】

年度 施設名	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
文化センター	45,294	39,999	30,816	9,962	15,288	28,904
研修室	9,179	9,910	9,599	4,425	3,715	5,105
体育館	20,458	19,939	19,043	14,108	15,919	12,030
民俗資料館	8,414	8,665	7,556	1,268	2,103	2,807
美術館	30,931	37,527	36,102	12,908	20,678	26,305
天体観測室	2,168	2,382	2,302	1,439	1,880	2,203
プラネタリウム	11,917	11,049	11,107	4,923	5,957	9,943
視聴覚センター	1,984	3,048	3,813	2,824	2,791	4,526
図書室	16,983	18,416	17,707	14,241	16,944	16,585
管理センター・その他	25,448	26,608	25,238	13,183	18,275	15,401

ウ 市町村別学校利用者数

【延べ人数】

年度 市町村	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
上田市	8,042	7,379	7,001	4,779	5,411	6,576
東御市	1,186	1,383	1,237	563	1,081	1,124
青木村	156	162	239	133	186	148
長和町	171	311	231	147	193	189
圏外、高校等	1,366	605	382	175	123	246
合 計	10,921	9,840	9,090	5,797	6,994	8,283

(2) 上田創造館の実施事業

上田創造館の各施設を活用した各種ソフト事業を下記のとおり実施しています。

新型コロナウイルス感染症対策のため、施設の一時閉館や使用制限、各種ソフト事業の人数制限等を行ってきましたが、現状は、地域内小学校ではほぼ全ての学校が授業で利用するようになっております。

今後は、未就学児や高校生、大学生、住民などの多様な学習の場として、利用者のニーズを把握し、利用促進を図る必要があります。

ア ソフト事業一覧

事業名称	内 容	主 な 事 業
科学館事業	学校学習支援事業（理科）、小中学生のための土曜日活用事業、天体観測、プラネタリウム観覧等上田創造館のコンセプトと特殊な設備を活用したソフト事業	<ul style="list-style-type: none"> ・学校学習支援事業 ・プラネタリウム事業 ・星空と音楽のコラボレーション企画（生解説） ・星空観望会 ・星空コンサート ・科学館連携事業
子ども科学講座	地元の人材資源の活用、地元企業との連携を図り、上田創造館の特色を生かした科学分野での育成を目指した事業	<ul style="list-style-type: none"> ・のびのびキッズ ・科学少年団 ・週末の理科室 ・発明チャレンジワークショップ ・発明アイデア作品展 ・マジカルクッキング ・子ども地質講座 ・上小児童生徒科学展
四季を通した企画展事業	上田地域における科学館として、四季毎に企画イベントを開催し、多様な住民交流の創出と、産学官連携の拠点施設として科学・工業の進展に触れる機会に努める事業	<ul style="list-style-type: none"> ・春の企画展 ・夏の企画展 ・秋の企画展 ・冬の企画展 ・風展
コミュニティ推進事業	昔ながらのなじみのあるものや、最新の技術によるものなど、身近なもので手軽にできるものづくりを楽しみながら、次世代に伝えていくためのコミュニティ活動事業	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども夢フェスタ ・ふしぎ、なるほど・おもしろサイエンス ・蚕の学習講座 ・絵手紙展 ・昔ばなし語りの会 ・おもしろ・ふしぎ体験広場

イ ソフト事業参加者数

【延べ人数】

年 度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
参加者数	36,071	42,654	44,016	13,517	22,551	33,573

4 上田創造館管理運営ビジョン

上田創造館における将来的な施設のあり方や改修計画等を明確にするため、次の2つのテーマを柱として「上田創造館管理運営ビジョン」を策定します。

なお、このビジョンは令和6年度から10年先を見越した計画とし、毎年検証を行い、必要に応じて見直しを行います。

I 「地域の科学館」

時代を担う子供達に科学に対する興味や関心・理解を深めてもらい、将来の上田地域を担う人材を育成するため、科学に特化した事業展開を図り、誰もが気軽に科学に触れる機会を持つことができる「地域の科学館」を目指します。

II 「交流・研修施設の充実」

これまでの施設利用の実績を踏まえ、交流やコミュニティ活動、各種会議研修での利用を促進するため、交流・研修施設の充実を図り、地域住民や各種団体の交流や研修の場を提供します。

5 管理運営ビジョンの個別計画

前項4で掲げた2つのテーマを実現するため、次の29項目の個別計画を実施していきます。それぞれの個別計画は、短期（概ね3年先）、中期（概ね5～7年先）、長期（概ね10年先）に分類・整理して実施していきます。

上田創造館管理運営ビジョン 個別計画

項 目	方 針	分類
I 施設の将来的なあり方		
I-1 上田創造館の役割	1 地域住民が科学に親しみ、楽しく学べる「地域の科学館」として、施設機能の見直しや充実を図り、科学分野中心のソフト事業と連携させることで、科学振興事業の拠点施設とする。	短期
	2 次代を担う子供たちが、科学への興味や関心を持つきっかけづくり、また、人材育成のための施設を目指す。	短期
	3 地域住民が気軽に交流し、地域コミュニティ推進のための施設として、活用しやすい設備や機能の拡充を図る。	短期
I-2 文化センター	4 催事・講演会・会議等の利用を中心とした施設とする。	短期
	5 老朽化が進んでいる舞台装置及び放送設備については、最小限の改修とし機能を縮小する。（利用の目的と多目的化）（照明のLED化及び装置の操作性の向上）	中期
I-3 美術館	6 展示会や会議、体験会の使用を目的とした施設とする。	短期
	7 照明や内装等は利用目的に沿った改修を行っていく。（LED化）	短期
I-4 視聴覚センター	8 視聴覚室（3階）は、視聴覚関連の機器を廃棄し、改修を行った上で学習及び研修を中心とした施設とする。	短期
	9 学習室（3階）は、図書館に附随する施設として現状のままとし、改修等は、他の施設の利活用などに併せて実施していく。	長期
	10 スタジオ（4階）は、現状利用のほか、新たな有効活用の方法を検討する。	短期
I-5 図書室	11 上田市と共同運営を行ってきた経過から、今後も協議のうえ管理を行っていく。	短期
	12 上田市図書館との役割を明確化し、科学図書館として関連図書を充実させる。	中期
I-6 民俗資料館	13 大幅なリニューアルを視野に入れながら、学校や関係団体から意見集約を行う。（一部、岩石・鉱物・化石展示室としてリニューアル実施済み。）	長期
I-7 児童科学館	14 4階フロア全体を「児童科学館」として、科学に関する知識の習得や体験の場を通じて、広く科学の振興を図るための事業を展開する。	中期
	15 学校利用の増加や充実のほか、幼児や一般の学習利用を検討する。	短・中期
	16 館内中心施設であり、地域内唯一の施設であるプラネタリウムの役割の重要度を明確化し、投映機器の維持及び番組の定期的な更新を図る。	短期
	17 科学実習室（4階）は、科学実験などのソフト事業で使用できるような多目的スペースとし、さらに有効な利活用を図る。	中期

項 目	方 針	分類
Ⅱ ソフト事業		
Ⅱ-1 主催ソフト事業	18 地域の科学館に相応しいソフト事業の実施。	短期
	19 将来、科学の分野でスペシャリストとして活躍できる人材育成や事業実施を協働で行うグループの育成・支援。	長期
	20 より質の高いソフト事業の実施や幅広い年代層を対象とした事業を実施するための研究を行う。	中期
Ⅱ-2 学校学習支援事業	21 市町村教育委員会や学校長会との連携により、利用促進を図る。	短期
Ⅱ-3 プラネタリウム投映	22 身近な話題や地域の特色ある自主制作番組の制作を行う。	短期
	23 広報紙等により利用者増加を図る。また、人気の高いプラネタリウム番組の導入を図る。	短期
Ⅱ-4 事業の内容検証	24 すべてのソフト事業において内容の検証や評価を行い、事業の拡充や改廃を行う。	短期
Ⅲ 管理運営		
Ⅲ-1 管理運営体制	25 上田創造館設置条例に準じ、引き続き指定管理制度により適切な施設の管理運営を行う。	短・中期
Ⅲ-2 管理運営費	26 施設改修に係る経費負担について、施設管理者（委託先）と所有者（上田地域広域連合）との間で分担ルールにより適切な管理運営を行う。	短期
	27 施設使用料について、消費税増税や施設維持管理費、近隣施設の状況を考慮し見直しを行う。	短・中期
Ⅲ-3 駐車場	28 駐車場不足の課題に対し、利用者の現状把握を行い、利用状況に応じて対処する。	短・中期
Ⅲ-4 計画的な施設改修	29 老朽化が進む中、施設管理者との協議により緊急性と安全性の確保、費用対効果を考慮し、支出を平準化した改修計画を作成し、実施する。	短・中期